

ベクトル並列型スーパーコンピュータ SR8000/128 更新のお知らせ

スーパーコンピューティングニュース Vol.6 No.6(2004.11)「システム変更等のお知らせ」にてお知らせしています通り、本センターでは2005年3月にベクトル並列型スーパーコンピュータをSR8000/128からSR11000/J1に更新します。撤去・導入作業のため、3月の運転スケジュールについて以下のように予定していますのでご注意ください。

なお、SR11000/J1システムのハードウェア及びソフトウェアの機能、性能について詳細はスーパーコンピューティングニュース Vol.6 No.6(2004.11)「次期ベクトル並列型スーパーコンピュータシステムSR11000のご紹介」を御覧下さい。

運転スケジュール（作業の都合により、日時が変更となる場合があります。）

	3/10 9:30	3/23 9:30	3/31 7:00	4/1 9:30
SR8000/128	年度末処理・撤去			
		SR11000/J1 試験運用		試験運用
	17:00	搬入・据付・調整		年度末処理
SR8000/MPP		サービス休止		
運用支援システム		サービス休止		

SR8000/128 のサービス終了

2005年3月10日9:30にサービスを終了します。サービス終了時に待機中又は実行中のジョブはキャンセルします。また、/short/batch, /para-ioに保存されたファイルの内容は撤去時に削除いたしますので事前にバックアップを取って置かれますようお願いいたします。なお、/batchに保存されたファイルは継続利用できるよう移行を計画していますが、万一に備えてバックアップを取って置いて下さい。

SR8000/MPPは3月10日17:00までサービスを行いますが、9:30以降はSR8000/128のジョブクラス及びファイルシステム（特に/batch, /short/batch）が使用できなくなりますのでご注意ください。

3月23日～30日の期間、パーソナルコースでMPPオプションを付加していない場合でもSR8000/MPPで並列ジョブを実行することができます。パイプキュー名をmpp-single又はmpp-parallelと指定して下さい。

SR11000/J1 の試験運用

2005年3月23日からSR11000/J1の試験運用を行う予定です。運用形態は現在検討中ですが、SR8000/128によるバッチシステム環境を引き継ぐ運用を計画しています。但し、以下の点で注意が必要です。なお、これらの内容は正式運用においても同様です。

- バッチシステム環境のみ提供します。（ログインできません。）
- 物理的なノードを論理分割し、8プロセッサで構成するSMPを1ノードとして運用します。これにより、1ノード当たりの理論性能、主記憶容量は60.8GFLOPS、64GBとなります。なお、並列実行ノード数は最大4ノードまでとします。
- 従来機とはバイナリー互換性がありません。これまで使用していたプログラムをSR11000/J1で実行するためにはソースプログラムの再コンパイルが必要です。
- 並列実行ランタイム環境Remote DMA, PVM、及び並列言語コンパイラPARALLELWARE, Parallel FORTRANは使用できません。

バッチジョブの投入方法やジョブクラス制限値、ファイルシステムの構成等、詳細は決まり次第 Web ページ (<http://www.cc.u-tokyo.ac.jp>) 等でお知らせします。なお、試験運用期間中は予告なく、システムの停止、構成の変更を行う場合がありますのでご注意ください。

SR8000/MPP、運用支援システムのサービス休止

システム更新作業のため、2005 年 3 月 10 日 17:00 ~ 3 月 23 日 9:30 の期間、SR8000/MPP(mpp-s, mpp-p)及び運用支援システム(m-vos, m-unix)のサービスを休止します。システム停止時に実行中のジョブはキャンセルしますので御了承下さい。なお、長期の停止になりますので /short/mpp-s, /short/mpp-p, /short/mpp-bt, /para-io に保存されているファイルはサービス休止までにバックアップを取って置かれますようお願いいたします。

(システム運用係・システム管理係)